

令和3年度 保育園の自己評価

昨年度に続きコロナ禍という環境の中で、新しい保育の取り組みや見直しを行ってきた一年でした。その中でも大切にしたい事を考え、継続だけでなく常に新しい風を吹かせ対応していける柔軟性を持ち、保護者の皆様に安心して預けられる場、安心して過ごせる環境を作ってきました。

●今年度の取り組みについて

1. 遊びから学べる新しい保育の在り方
2. 保育の質の向上を意識していく
3. 地域の方々への支援

●取り組み内容

1. 遊びから学べる新しい保育の在り方

→各クラス環境の適応、見直しを行ない、子どもが自分で考えて遊びを選べるようにしました。遊びの中では、月齢に合わせて一人遊びから模範遊び、見立て遊びや集団でのルール遊びなど、マンネリ化せず楽しみながら、様々なことを学べる活動を取り入れることが出来ました。コロナ禍においても子ども同士のコミュニケーションは成長、発達に欠かすことの出来ないものであると考え、小さな集団を作り、異年齢から刺激を得られる合同保育も実施し行うことが出来ました。

2. 保育の質の向上を意識していく

→今年度はクラス目標を掲げ、何を大切に保育を行っていくかを考え、年間スケジュール表を作成しクラス運営を行いました。年度初めの研修会では目標を書面にし、職員間で共有することで意識を高め、見直しを持った保育を行うことが出来ました。この試みは各自の新たな発見や刺激となったので、来年度も継続し、時間の経過により共感したことや刺激されたことが薄れることがないよう、更に横との積極的な繋がりを定期的に作っていきたいと思います。

3. 地域の方々への支援

→老人ホーム等の交流を増やしていきたいと思っておりましたが、お互い感染防止対策を重視したため、交流は行いませんでした。南区の取り組みである「つながり清掃ウォーク」は3～5歳児が参加し、公園のゴミ拾いを通して地域に役立つことで、貢献活動の一步として体感することが出来ました。今後は地域貢献について、子ども達と共に考えて行って行きたいと思えます。また、今年度開設したホームページ上の子育て相談窓口が、保育園に通園しない人への支援にも役立てられる地域密着型になるように考えていきたいです。

4. 次年度について

今後は異年齢保育を活性化し、横(同年齢)、縦(異年齢)の繋がりに学ぶ心を育てていきます。又、個性と特性を伸ばす保育として、型にはめずに一人ひとりの個性を尊重し子どもの秘めている才能や特性を引き出せるよう考えます。子どもの主体性、自主性を大切にし、挑戦したいと思う気持ちに寄り添った保育を意識していきます。